

ほんりゅう 尾北

No.290
2023・4

■発行■
尾北教職員労働組合
■責任者■
小山晃範(楽田小)

尾北教労 HP



子どもが輝き、教職員が健康に働ける学校を ～校長会との懇談会～

丹葉小中学校校長会と尾北教労との懇談会が、2月17日に行われました。学校現場におけるさまざまな課題がある中ですが、これまで確認してきた次の4つの立場を大切にしようと話し合われました。

- 子どもの願いや心の痛みを真正面から受けとめる学校をつくる。
- 血の通った働きやすい職場をつくる。
- 保護者や地域としっかり手をつなぐ。
- 教育という専門性と崇高な使命にふさわしい教員としての身分を保障する。

以下に「尾北教労からの提言と要請」をもとにした懇談会の内容の要旨を紹介します。

★「尾北教労からの提言と要請」の全文は、尾北教労のホームページからご覧になれます。

(「尾北教労」で検索・QRコードで簡単アクセス)



※以下は、校長会から示された見解の要旨です。

コロナ感染予防と学校生活

○感染予防と学校生活についてどう考えているか

- ・今後も子ども達と先生方の心と体の健康を維持できるように、新型コロナウイルス感染症の拡大予防に努めながらも、学校生活に目標や楽しみを作り、前向きな生活ができるように努めていきたい。
- ・ウィズコロナはもとより、アフターコロナも見据え、文科省や県教委からのガイドラインで示される内容や基準をもとに、市町教育委員会と相談しながら、教職員間での共通理解を図り、保護者への協力依頼を丁寧に行っていききたい。

○マスクは外す方向だが個への配慮も

- ・マスクの取り扱いについては、なるべく外す方向というのが進んでいこうと思われる。ただし、無理やりに取りなさいと指導するのではなく、つきたい子はつけていてもよいと配慮したい。

○学び合いを大切に

- ・マスクをつけた状況だが、ペアやグループなどの活動もやり始めている。
- ・今年度から4人グループは間隔を取りながら始めて、現在は普通に組み始めている。

GIGA スクール構想と

タブレット

○タブレットありきではなく、必要な場面で限定的に

- ・学習用端末の活用は目的ではなくあくまで手段であり、活用の方法は今後、研究を進めるべき内容であると考えている。
- ・児童生徒に対して、健康被害等に配慮した使用方法を指導していきたい。

○個別最適な学びについてどう考えるか

- ・学び合いなどの活動については、大事であると認識している。
- ・タブレットをAIドリルのような、いわゆる勉強のための道具として使うことは間違っている。探求の道具、学びの道具として使い、その先に個別最適な学びが保障されると思う。AIドリルによって個別最適な学びが生まれるというのは、間違った捉えだ。
- ・便利なツールも出てくるが、同時に危険な部分も出てくると思う。きちんと見極める必要がある。



○リモート授業は無理に進めない

- ・学級閉鎖や欠席時のリモート授業については、体調不良の子がやることは基本的にあり得ない。一律に行うのではなく、状況を判断した上で、協議して進めなければならない。
- ・学習端末の家庭への持ち帰りについては、保護者の同意を得た上で行いたい。

○教育データ利活用と教育DXにどう対応する？

- ・教育データについては、具体的な個人等が特定できるような情報は用いないことや、学習者本人が意図しない形での不利益な取り扱いがなされないようにすることに留意する必要がある。
 - ・教育DXについては、ギガスクール構想による1人1台端末の活用をはじめとした学校教育の充実が前提となるため、学習用端末の有効な活用についての研究を継続しつつ、教育データの利活用や教育DXについて今後の動向を注視していきたい。
- ICT支援員の増員を求める声があるが・・・
- ・ICT支援員の配置拡充が課題だと考えている。

新たな研修制度

○自主的・自発的な研修こそ大切

- ・子どもたちが学びたいと思うように、先生方も学びたいと思っている。まずは時間を確保したい。
- ・校長自身も同じ教師として、一人の良い学び手になりたい。そういうスタンスで職員と接することが、学校の研修ムードを高めていく。上から言われて学ぶというものではない。
- ・教員の多忙化に繋がらないよう、校長会としても県の動向を注視しながら進めていきたい。

○「研修履歴」作成が負担とならないように

- ・研修履歴の記録については、記録することを目的とするのではなく、新たな学びに向かうための手段として活用することが重要である。
- ・真に必要なものに厳選し簡素化を図るとともに、研修履歴の記録方法についても、できるだけ負担にならないような記録の方法にしたい。

多忙化解消と

働きやすい職場づくり

○教職員を増やすことが大切

- ・教職員の定数増と専科指導教員や養護教諭の複数配置なども、粘り強く要望していきたい。
- ・通級指導教室担当教員の配置拡充など、今日的な教育課題への対応が計画的に整備されつつある。
- ・先読み加配について、ぜひ利用したいというのが正直なところだが、講師などで雇える方がとても少ない。制度があったとしても、難しいところがある。

○休暇制度の周知を

- ・事情に応じて、療養休暇などさまざまな休暇制度があることを、職員に情報提供していきたい。
- ・制度を知らずにすべて年次休暇で処理しているような場合には、本人に声をかけて確認するなどして、不利益になることは避けたい。

○多忙化解消、働きがいと働きやすさに向けて

- ・多忙化解消に向け、地域や学校に合わせた取り組みをさらに進めていきたい。

- ・働き方改革は単なる業務の軽減ではなく、働きやすさと働きがいの改革だと認識している。

- ・子どもの利益と教職員の利益を高い次元で両立させ、教職員一人一人が今の仕事に誇りとやりがいを感じ、有意義な人生を送れるようにしていきたい。

- ・誰にでも弱さやその時々事情がある。それらを認め合い支え合う職場づくりに努めていきたい。



- ・江南市は忙しい4月に、全部5時間授業にしている。それでも標準時間数を下回ることはない。

○小中学校ともに持ち時間 20 時間以内に

- ・小学校では週 20 時間は厳しい。校務・教務の先生にもっと授業を持ってほしいと言われるが、お休みされた先生方の補充に入っている。
- ・中学校では、20 時間以内にできないかということを検討している。かなり近い線までいっているが、空いた時間は不登校生徒の対応に当たってもらっている現状がある。

勤務時間の適正化

○業務縮減と勤務時間、1 年単位の変形労働時間制

- ・業務の縮減は教職員の健康と生活を守るため、持続可能な公教育を維持するために必要不可欠な喫緊の課題である。今後も委員会や行事を含めた全ての教育活動を見つめ直し、業務縮減に努めたい。

- ・在校時間を正確に記録したい。
- ・職員会議や打ち合わせ、学年会、部会、現職教育などは 16 時 15 分までに終わるようにし、時間が足りなくなった場合は続きを別の日に行うか、続ける場合は別の日に割り振りを行うよう、適切に校長会等で伝えていきたい。
- ・学校や職員の実情に応じて、早く帰るよう、校長が声をかける場合があるが、時短ハラスメントにならないよう気をつけている。
- ・1 年単位の変形労働時間制は、県校長会としても、丹葉地区校長会としても導入を望んでいない。

○適切な割り振りと割振変更簿の活用を

- ・基本的に校長が必要と判断し、事前に職員に命じた時間外の勤務は、割振変更の対象である。
- ・丹葉地区においては全ての学校で割振変更簿を作成し、割り振りの日時数等を明らかにした上で、割振変更ができるようにしていると認識している。
- ・割振変更については、法制度の範囲内での長期休業中の変更も含め、一層、適切に対応できるように進めていきたい。

- ・割振変更を行う際は 30 分間の休憩時間について配慮し、弾力的に実施することは可能と考えている。
- ・週休日が先生方のリフレッシュや心身の健康保持のために大切である。土日に行事を行う際は、状況に応じて勤務時間の割振変更を行うなど、早めに勤務の拘束を解くよう配慮したい。

- ・休日における、半ば強制的なボランティア参加はあってはいけない。保護者の負担感も大きいので、休日の資源回収も減らしたり無くしたりしている。行わなければならない際は、校長が割振変更に近いような形で対応していると認識している。

- ・割り振りできない業務はなくしていきたい。